



～海外活動支援の巻～

## 美濃和紙の魅力を伝える 英国プロモーション

岐阜県美濃市産業振興部長 渡辺 彰

クリアでは、自治体が海外で行う活動について、事前の企画・準備段階から現地での活動まで、幅広くサポートしています。

今回ご紹介する岐阜県美濃市の英国プロモーションは、「もともと予定していた地方イベントだけでなく、ロンドンでも美濃和紙をPRしたい」という美濃市からのご相談をきっかけに、ロンドン事務所のネットワークやノウハウを活用して、実現できた事例です。ぜひ、今後の海外活動の参考にしてみてください。

### 和紙とうだつのまち、美濃市

岐阜県美濃市は、江戸時代に築かれた城下町があり、うだつ(注)の上がる町並みと、美濃和紙で知られる人口約23,000人の小都市である。1300年余りの間、磨き上げられた伝統の技を受け継ぐ美濃和紙の産地でもある。

### ウェールズにおける 「日本のスタイル：持続可能なデザイン展」

当市が、英国ウェールズ地方でイベントを展開するのは2回目となる。以前、ジャパン2001「和紙展」に参加し、和紙の展示をはじめ紙すきや提灯<sup>ちようちん</sup>の製作実演を行った経緯がある。今回は、同地方のルーシンにある美術館「ルーシンクラフトセンター」から直接依頼を受け、「日本のスタイル：持続可能なデザイン展」に使用するための美濃和紙を600枚提供することとなった。

同展は、日本の伝統工芸技法を応用した環境配慮型の持続可能なデザインを検証する企画展である。約2年の準備期間を経て、2012年4月1日から6月



クラフトセンター企画展  
オープニング風景

24日の間、在英国日本国大使館などの支援を受けて開催され、同クラフトセンターの3つのギャラリーで紙の空間、建築の展示、陶磁器の展示等が行われた。

当市は、3月30日から4月1日にかけて開催された同展オープニング式典等に、日本の自治体としては唯一招待され、加納和喜副市長、渡辺彰産業振興部長および長谷川聡氏(長谷川和紙工房・伝統工芸士)が参加した。世界で活躍する有力テキスタイルデザイナー須藤玲子氏による、美濃和紙と布地で出来た巨大なオブジェが最大の呼び物となり、滞在中、来館者とのトークセッションなどの公式プログラムを通じて、環境にやさしいサステイナブルな素材としての美濃和紙のPRを行うほか、ミュージアムショップにおいて実際の和紙製品を提供するなどした。

### ロンドンにおけるアピール・オブ・美濃和紙

当市は、3人の渡英機会を利用して、首都ロンドンでも美濃和紙の魅力を伝えるためにセミナーを企画した。クリアロンドン事務所の取り計らいにより、大和日英基金(日英間親善寄与のために設立された英国財団)において、特別イベントとして単独セミナーの実施をアレンジしていただくこととなった。

4月2日午後6時から、リージェンツパークに面した大和日英基金ジャパンハウスにおいて、美濃和紙の魅力を伝えるセミナー“The Appeal of Mino Washi”を開催する運びとなった。心配されたのは、集客であったが、事前登録は募集を開始した3月1日から1週間で、定員の70人をあっさり超え、その後すぐに締め切られることとなった。当日の参加者は約100人を数え、映像と音声を配信する第二会場



美濃和紙を称賛するハワード氏



熱心に聴き入る参加者



美濃和紙に触れる参加者

また、英国最大の現代美術館テート・モダンの西洋絵画の修復士も「美濃和紙は布のように

を準備していただくほどの盛況となり、我々のみならず大和日英基金側も市民の反響に驚いていた。

昨今、エコロジーあるいはサステイナブルの概念が注目されている英国。使い捨てではなく長く使える商品を購入するという環境に配慮した購買傾向も強くなっている。英国人の心には、職人や熟練工、製造者への尊敬の念がもともと根差していることもあり、独特の製造方法を持つ日本の伝統工芸が高い人気を呼んだのではないかと我々は考えている。

セミナーで最初の講演者は、紙すき職人・長谷川聡氏。最高級の薄美濃紙をつくる職人の一人であり、その製品は、日本内外の美術館や博物館で文化財を修復する際に広く活用され評価が高い。同氏が、美濃和紙の歴史と産地の現在の状況、美濃和紙の製造工程の詳細を説明すると、参加者は、全ての手漉き和紙が手作りで作られ、自然の原料を大切にしながら時間をかけて仕事が進められる点にとっても大きな関心を示していた。

2人目のスピーカーはロンドン在住のゾイ・ハワード氏。アーティスト・イン・レジデンス2011美濃・紙の芸術村事業で、昨秋3か月間余り当市に滞在した若手画家である。美濃和紙の自然の美しさを「Natural Beauty」と表現し、「薄美濃紙はかつて使ったどの紙よりも軽く薄く滑らかで温かみがある」とその魅力を伝え、「美濃和紙の自然の美しさを際立たせるための表現方法を探求していきたい」と強い思いを述べた。

英国を代表する著名機関の美術品修復専門家の方々も聴講しており、質疑応答セッションで参加いただいた。例えば大英博物館。欧州随一の日本美術蒐集を誇っている同館東洋絵画修復室では、破損がひどく展示ができない主要作品の修復を進める中で美濃和紙が使用されている。ここで実際に日本画修理をしている修復士は「美濃和紙は以前から当然のように修理に使っている」と話してくれた。

強いが、水にぬらすと加工もしやすい。美濃和紙は修復にうってつけ。30年以上前から使っている」と美濃和紙を高く評価してくれた。

この様子は、翌日本の新聞で地方版に掲載され、海外で高く評価されている美濃和紙のことを、岐阜県民にあらためて紹介でき、またとないPRとなった。この在英日本紙記者の手配もクレアロンドン事務所において綿密に準備していただいたものである。

ジェーソン・ジェームズ大和日英基金所長からは、「夕暮れのうだつの町並みに、美濃和紙あかりアート作品が並ぶ美しい情景には、本当に心を揺さぶられた。いつか貴地を訪れたい」との言葉をいただいた。参加者との交流会でも、「うちの博物館の日本伝統工芸視察でぜひ美濃市を訪れたい」「教えている学生たちを連れて日本の伝統工芸を体験したいが、できれば美濃和紙を見せたい」など好感触を得た。こうした動きが実際の来訪につながれば幸いである。

## 次は、ユネスコ無形文化遺産登録

当市では、江戸時代以来の伝統的、製作工法による本美濃紙がユネスコ無形文化遺産に登録されることを目指している。市の無形文化遺産の伝承者や支援者たちが、自分たち自身が人類の文化の多様性を示す一翼を担っていることをあらためて示そうとするものだ。昨年11月のインドネシア・バリにおける政府間委員会で審査され登録には至らなかったが、追加情報を求められ、次の審査の機会を待っている。

世界に認知されることを目指す当市にとって、英国においてウェールズとロンドンで、美濃和紙に対する好評価をいただいたことは大変な自信となった。英国での一連の事業を支えてくれたクレアロンドン事務所に大変感謝している。

(注) 屋根の両端を一段高くし、火災時の類焼を防ぐ防火壁のこと。後に装飾が施され、富の象徴といわれるようになった。